



遠隔（オンライン）講義開始に関するお知らせ

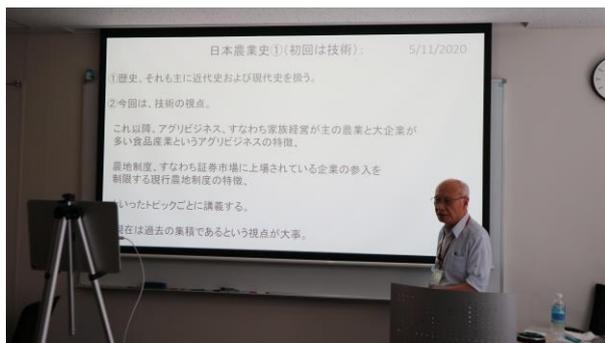
「農業経営者教育」を専門とする教育機関、日本農業経営大学校(校長:堀口健治、東京都港区)は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策として、学生の健康と安全に最大限に配慮すること、学生の学びの機会を最大限に提供することを目的とし、5月11日(月)の講義開始以降、当面の間「遠隔(オンライン)方式」で授業を行います。

学生本人のパソコンやタブレット、スマートフォンから受講が可能で、すべての在学生在が安心・安全に学ぶことができる環境を整え、オリエンテーションやオンライン講義の受講方法の説明については、すでに全てオンラインで実施しています。

今後は一方的に講師の説明をカメラで配信するだけでなく、ビデオ会議システムの機能を活用し、少人数制の本校の特色であるグループワークやディスカッションも積極的に行っていく予定です。

なお、対面講義の開始や延期している学生寮への入寮時期については、情勢を鑑み、学生の安全が確保できると判断されるまで未定としております。

【実際の講義風景】



<報道機関からのお問い合わせ先>

- 一般社団法人アグリフューチャージャパン
- 担当: 濱名 TEL: 03-5781-3750 E-mail: hamanay@afj.or.jp



<参考資料>

■ 日本農業経営大学校(URL:<http://jaiam.afj.or.jp/>) とは

- 所在:東京都港区港南2丁目10番13号 農林中央金庫品川研修センター5階
- 運営母体:一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン(所在:同上/URL:<http://www.afj.or.jp/>)
- 開校:2013年4月4日
- 学生数:1学年 定員20名
- 教育期間:2年間(全寮制)

■ 設立と教育の目的

日本農業経営大学校は、「農業経営者教育」を専門に行う教育機関です。

これからの農業者には、経営感覚が必要です。消費者らのニーズの把握、安心して安全な農産物の安定的な生産、多様な販路の確保——といった経営手腕が求められます。また、地域との共生や他業種を含むネットワークを発展させられる人間的な魅力やリーダーシップも重要な素養となります。

こうした能力を身に付けた次世代の農業経営者を育成することが、日本農業経営大学校の目的です。

■ 日本農業経営大学校で育む4つの「力」

- 経営力:経営者に求められる、知識と技術に裏付けられた判断力と決断力
- 農業力:農業者に求められる、知識と技術に裏付けられた地域農業の実践力
- 社会力:農業経営を取り巻く社会への適応力、そして変革していく能力
- 人間力:農業経営者として基盤となる、倫理観・哲学・使命感などの価値観と人間的な素養

■ 実践的かつユニークなカリキュラム

- 講義・演習
 - 専任講師に加え、農業界や産業界から最前線で活躍する経営者らを講師として招聘。講義と演習を有機的に結合させた授業を実施。演習は事例研究を中心に、自ら課題を発見し解決できる能力を育む。
- 農業実習
 - 1年次には4ヵ月間、先進的な経営を行う全国各地の農業経営体に派遣され、農業経営の最前線を体験するとともに、自らの将来に向けた目標や課題を描き出す。
- 企業実習
 - 2年次には3ヵ月間、一般企業での実習を積むことで、農業の新たな価値や可能性を考え、自身が目指す将来像へとつなげるヒントを得る。
- 卒業研究
 - 卒業前の2月。単なる「研究発表」ではなく、学生たち自身が卒業後、「いつ、どこで、何をするのか」を具体的に公表する、事業計画発表である点がユニーク。2年間の集大成。
- 全寮生活
 - 高卒から社会人入学の30代後半まで、多種多様なバックグラウンドを持つ学生たちが2年間、「同じ釜の飯を食う」ことで、多様な価値観や考え方を受け入れる感性、自主性、自律性など、農業経営者に必要となるさまざまな人間的素養を身につけることができる。

公式 Facebook ページ:<https://www.facebook.com/jam.transmission/>

<報道機関からのお問い合わせ先>

- 一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン
- 担当:濱名 TEL:03-5781-3750 E-mail:hamanay@afj.or.jp